

月刊 同友 やまがた



2025新春交流会



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす
中小企業経営者の全国組織

2024年度スローガン

自社の存在意義を問い直し、
地域と共に豊かな未来へ

天童で初開催 「聴きだす力」で社員と共に成長する企業へ



1月18日、「2025新春交流会」が天童市のほほえみの宿滝の湯にて開催され、約230名が参加しました。今回はさくらんぼ支部の役員を中心とした実行委員会が一丸となり、「土曜開催」「さくらんぼ支部設営」「天童市での開催」といった初めてづくしの新春交流会の成功に向け準備を進めてきました。

冒頭、挨拶に立った後藤代表理事は同友会の理念や活動を紹介し「同友会が提唱する『21世紀型中小企業』は、人を生かす経営を根底に労使が力を合わせる強い企業、地域社会と共に時代を切り開く企業であり、それにより地域が元気になる。今日を機に同友会運動がさらに広がり、山形がますます元気になる機会としたい」と語りました。

続いて来賓を代表して天童市長 新関茂様より「皆様は本市及び山形にとって経済の根幹を支える重要な存在。本交流会が実り多きものになることを心よりご期待申し上げます」とご挨拶をいただきました。

記念講演では「どげんしたと？聴きだす力でよかろうもん～社員の声を、聴いて活かして、共に成長しよう～」をテーマに、福岡同友会・福友愛支部の(有)Miyamaコーポレーション代表取締役 降旗美香氏からご講演をいただきました。

降旗氏の父が創業し、後に降旗氏が夫妻で入社した(有)みやまコーポレーションですが、降旗氏の夫への事業承継が本格化した矢先に三期連続赤字を計上。営業所を閉鎖、同時期に夫が入院するなど状況が悪化します。弟が経営する長距離輸送をメインとする会社への吸収合併も検討されましたが、「合併しては、軽貨物輸送を専門としてきた社員の居場所がなくなる」と考えた降旗氏は、交渉と経営改善の末に社長に就任。世界進出を見据え社名の「みやま」を「Miyama」に変更するとともに、本格的な改革に着手しました。

最初に取り組んだのは社員の声を「聴く」ことでした。同社の問題の根本原因をコミュニケーションエラーだと考

えた降旗氏が全ドライバーへのヒアリングを行うと「仕事や給料が不満」「管理職に相談しづらく、しても返事がない」「休みや、自分や家族のための時間がない」「スキルアップに投資する余裕がない」等の不満が噴出。それを受けて、経営理念の「あん(安全、安心)・しん(心、信頼)・かん(感動、感謝)」を軸に「ドライバー」「管理職」「新規事業」の三本柱で改革に着手。社員と共同での行動指針作成、管理職の増員で相談しやすく休みやすい企業づくり、「プラス思考面談」「立ち話面談」等のモチベーション向上や課題発見につながるコミュニケーション、家族との時間を大事にする施策、メンター制度等の早期退職防止、労働条件公開による公平性向上と目標の明確化、配置転換や新規事業による長く働ける職場づくりなどに取り組みました。

また、十人十色の社員の声それぞれに経営者や管理職が向き合うことを重視し、複数の管理職会議や、社長と管理職が共に学びあう管理職研修も実施。結果としてお客様とのコミュニケーション能力も向上し売上も上昇。海外展開や社員の声を受けた新規事業も始まりました。退職者の出戻りや、社員の子供、親、配偶者の紹介による入社も出てきました。

降旗氏は最後に「日常会話から一歩踏み込んで社員の本音を聴きだす覚悟が必要で、その勇気が聴きだす力につながる。安心して働ける会社づくりを、社員と共に頑張っていきたい」と講演を締めくくりました。

引き続き行われたグループ討論では、「社員さんの声を聴いてどのように経営に活かしていますか？」をテーマとして、社員の声を聴き、社員と共に進めるよい会社づくりを語り合いました。

懇親会は齋藤和彦実行委員長より「最後まで盛り上がり、楽しく今日の勉強を締めくくっていただきたい」との挨拶の後、きらやか銀行 取締役 鈴木拓志様の乾杯で始まりました。テーマソングお披露目、各支部会員企業自慢の一品を持ち寄った「格付けチェック」クイズ大会などで懇親を深めた後、志田清志第41回定時総会実行委員長の中締めにて、盛会のまま閉会となりました。



同友会の活かし方を知ろう



1月21日、同友会事務局にて同友会を知る会が開催されました。同友会を知る会は、新会員と入会対象者のゲストを対象に、会の理念や組織、活用方法などの概要を知り、例会参加や入会のきっかけにさせていただくために開催しています。今回は会場とオンライン合わせて9名のゲストを含む15名が参加しました。

冒頭、川合代表理事より「我々は今、非常に厳しい時代にある。地域で人を採用して事業をする中小企業は、地域が良くならなければ好転しない。同じ地域の経営者と様々な経営体験を共有し、本音を言い合えるのが同友会の特徴。ぜひ活動にご理解いただき、入会を検討してほしい」と挨拶がありました。

続けて、同友会の歴史と理念についての動画視聴と代表理事による補足説明があり、斎藤マシン工業(株) 代表取締役社長 中川健氏より同友会を活用した体験報告が行われました。

社長の学校との出会い

斎藤マシン工業(株)は真空関連装置部品製造や機械加工などを行う製造業の会社です。2017年、中川氏が社長に就任した頃の同社は、忙しいけれど利益が上がらず、社員が疲弊して定着しない状況でした。そんな中、同友会という「社長の学校」があると紹介され、入会してすぐに経営指針をつくる会を受講しました。

受講前は、目の前の問題への対応に終始する日々でしたが、同友会で「社員さんの幸せとは」「自社の強みとは」「今ある仕事はずっと無くならないのか」など今まで考えてこなかった問いにさらされ、徹底的に自社について考え抜きました。

経営指針で自社が変わった

経営指針をつくったことによる変化は、会社の方向性が明確になったことだと中川氏は語ります。社長が指示する時はもちろん、幹部社員が部下へ指示をする際にも、指示の理由を理念に照らし合わせて説明することで、納得してもらいやすくなったといいます。そして、言われたことしかやらない社員が減り、自主的に行動するようになりました。社内の委員会活動や、働く時間帯を選べるシフト制などは、社員が自ら動き、ルールを守って行われています。現在では、納期通り図面通りという約束のもと、年間休日数も社員の提案で決定しています。

最後に中川氏から「以前は社員さんよりもお客様の方を向いて、色々やってきた。しかし最近、実は経営者が社員さんを思いやると、社員さんはお客様のことを思いやってくれるということを実感している。一歩踏み出さなければ何も変わらない。ぜひ一緒に学んでいきましょう」と呼びかけがありました。

その後のグループ討論では「現在の課題と将来の展望」をテーマに、参加者それぞれの悩みやこれからの目標を本音で語り合いました。

同友会を知る会は、新会員と入会対象者のゲストを対象に毎月開催しております。各支部でも定期的に行われ、「同友会のことがよくわかった」「入会につながった」と好評をいただいています。お知り合いの新会員さんや、一緒に学びたい方をぜひお気軽にお誘いください。

第11回 同友会を知る会

2月28日(金) 15時開催!

報告者:(有)長門屋 代表取締役 笹林陽子氏

新会員さんと一緒に学びたいゲストさんをぜひご紹介ください!

きいでける 「暮らしのお悩み解決事例集」完成



山形支部で立ち上げられた地元企業紹介サービス「きいでける」では、これまでのお悩み解決をまとめた事例集を作成。山形市内の地域包括支援センターやコミュニティセンターを中心に、高齢者支援窓口での配布を始めました。

「きいでける」は、地域には優秀な技術やサービスを持つ企業がたくさんあるものの、ネット検索では全国規模の大手企業しか出てこない、地元企業をなかなか見つけることができないという背景を受け、信頼できる地元企業を紹介し、地域

に住まう人々の暮らしの困りごとを解決する仕組みとして2022年に山形支部内に組織されました。2カ月に一度集まり、自社サービスの紹介をしあうことで企業間の相互理解を深め、会社と業界の枠を超えて連携しながら、地域の課題解決に取り組んできました。

2年間の活動の中で、44件の依頼があり、そのうち36件(81.8%)が70歳以上の方からのものでした。地域包括支援センターを経由しての問い合わせも多く、高齢者の方が生活の「困った」をどこに相談したらいいかわからないという不安感を多く抱えていることが分かりました。

事例集は高齢の方の「困った」に届くよう、ウェブではなく紙媒体を用い、「ブロック塀の傾き」「蛇口からの水漏れ」「テレビが映らない」などそれぞれの事例ごとに問い合わせの経緯と利用したお客様の声を掲載しました。担当者からの一言も掲載することで、周知を図るとともに安心して利用していただけるよう構成しています。

「きいでける」の取り組みは、地域の方の困りごとを解決して安心して日々の生活を送れるようになるのはもちろんのこと、取り組みに共感した方が入会するなど、仲間づくりにもつながってきています。

山形県中小企業家同友会 第41回定時総会のご案内

2025. **4.21** (月)

会場

パレスグランデール

内容・形式：総会議事／記念講演・グループ討論／懇親会

記念講演

講師 (株)吉村 代表取締役社長 橋本 久美子氏
(中同協女性部連絡会代表・東京同友会代表理事)

詳細は追ってお知らせいたします。

2月例会のご案内

山形支部

同友会で学ぶならまずは経営指針から学べ！

2025.2.18(火)18:30~21:00

場所：山形テルサリハーサル室&zoom
山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

報告者：(有)後藤石材店 代表取締役 後藤康晴氏
(株)山から 代表取締役 高橋寛光氏

会社経営の基本は、経営指針（経営計画）ではないでしょうか。自社は何をしている会社で、地域や社会にとってどんな存在で、人として何を指して成長するのか、説明できますか？10年後、自社は存在しているか考えたことはありますか？同友会に入ったのならば、よい会社、よい経営者、よい経営環境を確立するために共に学びましょう。経営指針や企業理念をもとに社員と共によい会社を築き、魅力のある会社に育てて、地方創生を共に考え、これからの山形を考えていきましょう。

2月例会は、小川委員長率いる「経営指針をつくる会」と連携して例会を開催します。多くの修了生を輩出して山形で活躍している仲間の話をご参考により経営者を目指す機会にしよう！

さくらんぼ支部

事務員から理事長へ ～地元愛と肉そば愛から生まれる新たなストーリー～

2025.2.28(金)15:00~17:30

場所：河北町産業振興センター
西村山郡河北町谷地月山堂654-1 河北町商会2階

報告者：企業組合かほく冷たい肉そば研究会 理事長 逸見朋愛氏

逸見氏の祖父は河北町で金物屋を営んでいましたが廃業し、時の流れと共に商店街はシャッター街となりつつありました。逸見氏は廃れていく町を前に、なんとかしたいとの想いから商工会職員となりました。せんべい汁で町おこしに取り組む青森の取組みに刺激を受け、河北町には「冷たい肉そばがある！肉そばを使って町をPRしたい」と声を上げました。冷たい肉そばはB級グルメではないという反対の声にも、一店舗一店舗回りながら、町を元気にしたい、PRすることで活性化につながると話し合いを重ね、理解を醸成してきました。商工会の補助事業として始まりましたが、理解を醸成し、巻き込みながら少しずつ輪を広げ、2013年には組合を設立。イベント出店だけではなく、お土産品としての展開も始まり、より多くの方に河北町を知ってもらい、交流人口を増やす機会となっています。

「食で地域おこしをしたい。食べ物は人を一瞬で笑顔にできるから」と語る逸見氏の挑戦は、まだまだ続きます。逸見氏のこれまでの歩みと今後の展望から、地域のために何ができるのか、共に考える機会としましょう。

庄内支部

食戦略から「健康経営」に取り組もう！

2025.2.21(金)16:30~19:00

場所：公益ホール 中研修室2&zoom
酒田市飯森山3-5-1 東北公益文科大学敷地内

報告者：FREC(株) 代表取締役 馬淵恵氏
(演題：タフなビジネスマンとなるための食生活)

「健康経営」という言葉を聞いたことはあっても、実践している企業はまだまだ少ないのが実情です。経営者向けの食生活講座「タフなビジネスマンになるための食戦略」開催や酒田米菓健康せんべい事業部での商品開発、女性の外部連携など、多方面で活躍するFREC株式会社馬淵社長から、食戦略による「健康経営」を学びましょう！

寒河江支部

長岡山会議ってなに？ ～地域課題を、実践可能な問いに変えるには～

2025.2.14(金)18:30~20:30

場所：寒河江市技術交流プラザ
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：一般社団法人長岡山会議 代表理事 鏡芳昭氏

「長岡山会議は、クリエイティブ発生装置」と話す鏡代表。一般的に言われている地域課題は、その地域にとって正しい問いになっているのか？

寒河江を発信源に地域イノベーションを起こすことを目的に立ち上がった一般社団法人長岡山会議。これまで、国内外から延べ150人以上が参加し、寒河江を舞台に対話が繰り返されてきました。

そこから見える未来には「出会い」から生まれるビジョンがあります。今までの常識を覆す未来が出現する、そんな「場」づくりが寒河江で動き始めています。鏡氏の実践報告から謎の取り組みがどんなものかを知り、自社が存在する地域をいかに盛り上げていくかを考え合ひましょう。

置賜支部

地域課題へ真剣に取り組んでいますか？

2025.2.20(木)18:00~20:00

場所：伝国の杜
山形県米沢市丸の内1丁目2-1 ☎0238-26-8001

報告者：認定NPO法人With優 代表 白石祥和氏

中小企業は社員や顧客の住む地域が元気でなければ発展しません。厳しい経営環境のなかで、経営者が地域や社会の課題解決という視点を持つことは不可欠です。そして、人の役に立つ仕事をしているという自覚は、社員の誇りやよこごびに繋がります。

米沢市を中心に活動する認定NPO法人With優は、フリースクールやカフェ、居酒屋などの運営を通して、社会で生きづらさを抱えた人たちの支援を行っています。2月例会は認定NPO法人With優 代表の白石祥和氏より、子どもたちや若者の声を聴き、当事者として参加してもらいながら地域課題解決の取り組みを広げてきた実践をご報告いただきます。

自社ができる社会貢献や地域貢献とは何かを考え、経営者として出来ることや果たすべき責任を学ぶ機会にしましょう。ゲスト参加も歓迎しております。ぜひお誘いあわせの上ご参加ください。

新庄最上支部

危ない！M&Aのみんなが知らない落とし穴

2025.2.17(月)18:30~21:00

場所：新庄市民プラザ 第5研修室&zoom
新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

報告者：司法書士柴田事務所 代表 柴田慶一氏

事業承継の手段の一つとして近年脚光を浴びているのが「M&A」です。親族内承継が減少する一方、M&Aの実施件数はここ数年で大幅に増加。M&Aで事業を拡大する企業も増加傾向です（中小企業庁調べ）。「打診を受けたことがある」「子供は継ぐ気がなさそうなので将来的には譲渡も考えている」「他社を買収して規模拡大したい」という方もいらっしゃるかもしれません。

一方で、法整備が十分でないことを悪用した、詐欺まがいの悪質なM&Aにより、会社を乗っ取られる、倒産に追い込まれる等のトラブルが相次いでいます。山形でも同様の事業が発生しているものの、M&Aの事例自体がまだ少ない山形では、トラブルに対応できる専門家もまだ少ないのが実情です。M&Aを検討するにあたっては、まずは経営者自身が正しい知識を持ち、適切な経営判断を行うことが重要です。

今回の支部例会では、支部幹事の柴田氏から、司法書士の目線でM&Aトラブルについて解説と注意喚起をしていただきます。会社を、社員を、そしてなによりあなた自身を守るため、M&Aのリスクを学び合ひましょう。ゲストの方も大歓迎！ご参加お待ちしております。

第9回理事会報告

◆日時:2025年1月8日(水)午後3時00分～午後4時50分 ◆会場:TISカンファレンスルーム ◆議長:小川副代表理事
◆出席者:(敬称略)川合、菅原、後藤(智)、阿部、小川、佐藤(啓)、武内、菊地、後藤(康)、志田、東海林、大久保、大江、笹林、伊藤(誠)、中川、本多、前盛、小寺、平形、庄司、齊加、井田、佐藤(奈)事務局矢作、芳賀、青木、上遠野

■開会挨拶

後藤代表理事が中同協の経営実態アンケート結果に触れ、「景況感」は『変わらない』が46.2%、『好転』が28.8%、『悪化』が14.6%。業況は『増益』が合計で49.1%、『減益』が合計で42.9%。55.8%の企業が人手不足であり、労働力の不足は深刻。2024年度の賃上げは約8割の企業が実施しており、2025年度も66.0%の企業が賃上げを予定している。このようなアンケート結果も参考にいただければと思う。今年の干支である巳には、殻を破る、変革という意味があるそうです。何かを成し遂げるには様々な抵抗や困難がある。経営者も困難に負けず頑張っていきましょう」と挨拶がありました。

■学習会

書籍『同友会運動の発展のために』の第2章『同友会の活動と運営』の読み合わせを行いました。

■報告事項

- 1)2024年度12月月次報告
矢作事務局より報告がありました。
- 2)2024年度12月月次決算報告
矢作事務局より報告がありました。

■承認事項(入・退会承認) 2名退会 493名

■討議事項

議題1:目標達成に向けての取り組みについて

- 1)組織委員会の報告
菅原代表理事より下記の報告がありました。
・会員増強については、新春交流会や同友会知る会へのゲスト参加の呼びかけを強化していく。
・KPIの設定については再度支部幹事会で共有する。
・広報委員会はHPの改修等に向け協議しており、どこを目指すのかをこれから明らかにしていく。
・同友会を知る会は未受講者が多くなっているため、各支部でも声かけを行うことを確認した。
- ・2月18日のDX学習会、3月17日の中小企業の支援制度についての学習会、委員会合同例会の準備状況の報告と案内が行われた。

2)目標達成に向けての具体的な取り組みについて
菅原代表理事より「目標とのギャップは24名。声がけした方の3割に入会いただけるとして、72名の声がけが必要になる。新春交流会へゲスト参加の呼びかけをしていこう」と協力の依頼がありました。

3)同友会を知る会の予定

日	時	会場	歴史と理念	体験報告
1月21日(火)	15:00	同友会事務局	菅原代表理事	中川 健
2月28日(日)	15:00	同友会事務局	後藤代表理事	笹林陽子
3月7日(金)	15:30	鶴岡市総合保健福祉センターこころ	後藤代表理事	園部幸春

議題2:第41回定時総会議案作成について

- 1)スケジュールについて
川合代表理事より総会議案作成のスケジュールが提案され、確認しました。
- 2)役員選考について
川合代表理事より役員選考に関するスケジュールの説明があり、各支部より1名の役員選考委員の選出と理事推薦の依頼がありました。また、役員公募期間を、2月17日(月)～3月3日(月)とすることが提案され、承認されました。
- 3)2025年度予算(案)について

3月理事会で第1次予算案を審議することが決まり、2月25日まで各支部・各委員会・各部会より予算案提出の依頼がありました。

4)2024年度の活動の振り返り

川合代表理事より、今年度の振り返りについて提案があり、継続審議となりました。

議題3:2025新春交流会について

参加申込状況を確認後、武内理事より「全体としての目標200名は達成したが、目標達成に至っていない支部もある。さくらんぼ支部では幹事がこつこつ電話連絡をし、回答率も高くなっている。地

道にゲストを含めて呼びかけをお願いしたい」と協力依頼がありました。

議題4:第41回定時総会について

1)支部活動費の支出について
実行委員長の志田理事より、副実行委員長と1月31日に記念講演講師の(株)吉村橋本久美子社長を訪問するなどの準備状況の報告がありました。

議題5:委員会・部会より

- 1)経営指針委員会より
・企業変革支援プログラムVer.2 e.doyu登録 43名(目標達成)
・第29期経営指針をつくる会 6名修了
小川副代表理事より「11月、12月は企業変革支援プログラムVer.2登録強化月間として取り組み、その結果として目標の40名を達成できた。このプログラムは社員と一緒にやることで、自社の点検を行い、進むべき方向性を考えることができる。登録の上、活用していただきたい。また、第29期経営指針をつくる会は6名修了した」と報告がありました。

2)青年部より

東北ブロックの青年部より第53回青年経営者全国交流会の分科会報告者に東海林副部長へ依頼があったと報告があり、承認されました。

■その他

- 1)今後の予定について
・1月10日(金)～11日(土)中同協第3回新春幹事会(東京)
・1月11日(土)北海道・東北ブロック代表者会議(東京)
・1月16日(木)～17日(金)2024年度第2回中同協・経営労働委員会(東京)
・1月18日(土)2025新春交流会(滝の湯ホテル)
・1月24日(金)委員会合同例会
(TISカンファレンスセンター)14:00～
・1月27日(月)経営姿勢確立セミナー第3講
(TISカンファレンスセンター)15:00～
・1月29日(水)～30日(木)全国事務局リーダー研修会(東京)
・2月6日(木)～7日(金)第55回中小企業問題全国研究集会(愛媛)
・2月7日(金)第43回中同協青年部連絡会IN愛媛(愛媛)
・2月7日(金)学校担当者との就職懇談会(山形テルサ)13:30～
・2月13日(火)2024年度第2回中同協・共同求人委員会(東京)
・2月18日(火)第1期中小企業家同友会事務局アカデミー(東京)
・2月18日(火)DX学習会(嶺メコム)13:30～
・2月27日(木)2024年度第2回中同協・社員教育委員会(東京)
・3月4日(火)2024年度第2回中同協女性部連絡会(ZOOM)
・3月17日(月)国の中小企業支援制度の学習会
(TISカンファレンスセンター)15:00～
・4月2日(水)2025年度合同入社式・新入社員研修
(山形ビッグウィング)
・4月21日(月)第41回定時総会
- 2)今後の常任理事会と理事会日程について

第10回常任理事会	2月5日(水)16:00	第10回理事会	2月13日(木)15:00
第11回常任理事会	3月5日(水)16:00	第11回理事会	3月12日(水)15:00
第12回常任理事会	4月2日(水)16:00	第12回理事会	4月9日(水)15:00

- 3)佐藤(啓)理事より、6月に東京で開かれる中小企業サミットへの参加呼びかけがありました。
- 4)伊藤理事より、Y-bizの富松センター長が支援事例の紹介として「ぎいでける」の取り組みを報告されることになり、「我々の活動が地域課題の掘り下げに繋がっているとの原稿を読み、活動を振り返る機会になった」と報告がありました。

■閉会挨拶

菅原代表理事より「2025年は巳年。山形同友会が発展する機会にしたいので、皆さんご協力よろしくお願いします。ぜひ500名を達成しましょう」と挨拶がありました。

